

戦後のピカソ文献

—Alfred H. Barr, *Picasso: Fifty Years of His Art* 以後に刊行された文献—

八重樫春樹

Etudes sur Picasso 1945—1970

par Haruki YAEGASHI

今さら改めて記すまでもなく、現在までにピカソに関して書かれた文献の数は、実に歴大の一語に尽きる。ニューヨーク近代美術館長 Alfred H. Bar が 1946 年に発表した *Picasso: Fifty Years of His Art* の巻末には、雑誌論文記事を含めて 538 点の文献が紹介されている。同書はピカソ芸術の最初の最も分析的客観的な総合研究であり、キュビズム以前の初期に関しては現在訂正されるべき箇所が少なくないにもかかわらず、今日においてなお基本文献の筆頭に掲げられるべき書である。本稿は「戦後のピカソ文献」と題したが、正確には副題に示したように、前掲書で紹介された以降の文献の総集を試みたものである。

上記のように、*Picasso, Fifty Years of His Art* が著された1946年の時点ですでに、それまでにおけるピカソ芸術に関して言葉と紙数を尽くしたかの観があるが、事實はピカソ芸術に関して真に学術的な研究は、その後になって書かれたものがほとんどであり、しかもその数は決して多くはない。そしてピカソ芸術の美学的及び芸術学的研究は、むしろ今後に期待されるものが大きく、実際そうした意味での研究成果は、最近になっていくつか登場して来ている。芸術家としてのピカソは、今日ようやくにして過去の存在となり、彼の芸術は現代芸術に絶大の影響力を及ぼしながらも、それ自体は現代芸術の主流であることをもうだいぶ前から、すでに已めている。最近のピカソ文献から言葉を借りれば：—

Il est certain que Picasso n'est plus au-

jourd'hui un peintre contemporain (et c'est peut-être tant pis pour les "contemporains"). Tout ce qui s'est fait en peinture depuis 1945 ne le concerne pas et ne peut en aucune manière se rattacher à son influence.

André Fermigier, *Picasso*, Paris, 1969, p. 374

In a list of the painter who had exercised the greatest influence in the years since the Second World War Picasso would probably not come among the first half dozen—perhaps not among the first dozen. . . . Picasso continued to invent—that he will do as long as he can hold a brush—but he is no longer in the vanguard, or even in the main stream of European art.

Picasso is eighty-six, and it might be supposed that we could now begin to view his work objectively.

Anthony Blunt, *Picasso's 'Guernica'*, London, 1969 pp. 3-4

最近のピカソ研究の著しい成果は、初期の作品の発掘とそれに伴うカタログの再編成である。そしてこの初期を扱った、いわゆる *Catologue raisonné* としては、Pierre Daix et Georges Boudaille, *Picasso 1900-1906* (Paris 1966) があげられる。これによって、A.H. Barr の前掲書がほとんど Christian Zervos, *Pablo Picasso* (Vols. I, II) にのみ準拠せざるを得なかったため陥っていた誤謬が是正されることになった。Zervos のこの大カタログは、1952年にそれま

での巻に収録漏れの作品を一括収録して第6巻とし、更に第21巻(1969年)及び第22巻(1970年)に、1892年から1906年までの作品を新たに多数収録している。これらの成果によって、まだまだ問題点の多い初期、特に「青の時代」、「ばら色の時代」に解決の糸口がいくつか見出だされることとなったのは、非常に喜ばしい。

以下1946年以降のピカソ文献を、便宜上一応の分類を与えて紹介し、特記すべきものについては簡単な解説を加えた。

I) 作品の目録, 画集, 展覧会カタログ

a. 絵画総カタログ

Christian Zervos, *Pablo Picasso*, Edition Cahiers d'Art, Paris,

Vol. I, *Oeuvres de 1895 à 1906*, 1932

Vol. II, *Oeuvres de 1906 à 1912 et Oeuvres de 1912 à 1917*, 1942

Vol. III, *Oeuvres de 1917 à 1919*, 1949

Vol. IV, *Oeuvres de 1920 à 1922*, 1951

Vol. V, *Oeuvres de 1923 à 1925*, 1952

Vol. VI, *Supplément aux volumes I à V*, 1952

Vol. VII, *Oeuvres de 1926 à 1932*, 1955

Vol. VIII, *Oeuvres de 1932 à 1937*, 1957

Vol. IX, *Oeuvres de 1937 à 1939*, 1959

Vol. X, *Oeuvres de 1939 et 1940*, 1959

Vol. XI, *Oeuvres de 1940 et 1941*, 1960

Vol. XII, *Oeuvres de 1942 et 1943*, 1961

Vol. XIII, *Oeuvres de 1943 et 1944*, 1962

Vol. XIV, *Oeuvres de 1944 à 1946*, 1963

- Vol. XV, *Oeuvres de 1946 à 1953*, 1965
 Vol. XVI, *Oeuvres de 1953 à 1955*, 1965
 Vol. XVII, *Oeuvres de 1956 et 1957*, 1966
 Vol. XVIII, *Oeuvres de 1958 et 1959*, 1967
 Vol. XIX, *Oeuvres de 1959 à 1961*, 1968
 Vol. XX, *Oeuvres de 1961 et 1962*, 1968
 Vol. XXI, *Supplément aux années 1892-1902*, 1969
 Vol. XXII, *Supplément aux années 1903-1906*, 1970

ピカソの作品目録中で最も基本的なもの。油彩、水彩、グワッシュ、素描の全作品収録を企画して刊行され、現在まで上記のようにすでに22巻23冊が出版されている。キュビズム以前の作品の制作時期推定に誤謬が少くないが、それは次にあげるP. Daix et G. Boudaille, *Picasso 1900-1906* によって正補足することができる。なお前述のように第21巻、第22巻では、1892-1906年の作品を多数追補している。全絵画作品のほか、彫刻作品の一部を含む。全作品モノクロームのグラヴィア図版。またこの目録には、日本所在の《頭蓋骨》(1942年、大原美術館)、《リグノー夫人像》(1953年、国立西洋美術館受託作品)は含まれていない。そうしたことから、比較的後年の部分にも、いずれ相当の追補が行なわれるものと思われる。

Pierre Daix et Georges Boudaille, *Picasso 1900-1906*, Neuchâtel-Paris 1966

両著者は特にピカソ初期の研究において最近その活躍が顕著である。意欲的な探究の成果

はこのカタログにも明確に結実している。本書は、刊行と同時に初期ピカソ研究の最も根本的な文献としての地位を獲得したといつてよい。良質の色彩版60点。

Alberto Moravia et Paolo Lecaldano, *L'opera completa di Picasso blue e rosa*, Milan 1968
 'L'opera completa' のシリーズのひとつ。内容は前記カタログとほぼ同一だが、その右に出る成果は認め難い、色彩版多数。

b. 水彩・グワッシュ・素描

Christian Zervos, *Dessins de Picasso, 1892-1948*, Paris 1949

Maurice Jardot, *Picasso (dessins)*, Paris 1959

John Richardson, *Picasso, aquarelles et gouaches*, Bâle 1964

c. 版画

Bernard Geiser, *Picasso peintre graveur*,

I. 1899-1931, Berne 1935

II. 1932-1934, Berne 1968

Georges Bloch, *Picasso, catalogue de l'oeuvre gravé et lithographié, 1904-1967*, Berne 1968

版画ではこの二書が catalogues raisonnés で1967年までの作品はほとんど総べて網羅されているが、その他に

Fernand Mourlor, *Picasso, lithographies*, 3 vols., Monte Carlo 1949-1956

H. Berggruen, *Picasso, 60 ans de gravure*, Paris 1964

K. Leonhard et H. Bolliger, *L'oeuvre gravé de Picasso*, Lausanne 1966

d. 彫刻・陶芸

Daniel-Henry Kahnweiler, *Les Sculptures de Picasso*, Les Editions du Chêne 1948

Roland Penrose, *The Sculpture of Picasso*, New York 1967

G. C. Argan, *Scultura di Picasso*, Venise 1953

Jaime Sabartes, *Picasso ceramista*, Milano 1953

e. 演劇装飾（舞台・衣裳）

Douglas Cooper, *Picasso et le théâtre*, Paris 1967

ピカソは1917年に Jean Cocteau の誘いでロシア・バレエ“Pavade”の舞台装置・衣裳をデザインして以来、いくつかの演劇のために仕事をしているが、本書はそのための習作素描や写真を集めたもの。

f. ポスター

Christophe Czwiklitzer, *290 Affiches de Picasso*, Paris 1968

J. K. Forster, *The Posters of Picasso*, New York 1964

g. その他

H. Matarasso, *Bibliographie des livres illustrés par Pablo Picasso. Oeuvre graphique 1905-1956*, Nice 1956

Abraham Horodisch, *Picasso as a book artist*, London 1962

M. De Micheli, *Scritti di Picasso*, Milano 1964

h. 展覧会カタログ

この項に関しては重要なものいくつかをあげるに留める。

Pablo Picasso, Rome-Milan 1953

掲載作品（又は出品作品）は329点。序文は Franco Russoli。

Picasso 1900-1955, Musée des Arts Décoratifs, Paris, juin-octobre 1955

出品作品は絵画のみ126点。執筆は Maurice Jardot。

Picasso, The Art Council of Great Britain, 1960

出品作品280点（油彩画）。執筆は Roland Penrose。

Picasso Guernica, 国立西洋美術館 1962年11月3日—12月23日 この展覧会には《Guernica》

そのものではなくそれをもとにして制作されたタピスリーが出品された。出品内容は参考作品を含めて63点。

Picasso and man, The Art Gallery of Toronto, 1964

出品作品273点。執筆は, Jean Sutherland Boggs, John Golding, Robert Rosenblum, Evan H. Turner。

Pablo Picasso Exhibition—Japan 1964, 国立近代美術館その他1964年5月23日—8月18日

出品作品 148 点。序文 Daniel-Henry Kahnweiler.

Hommage à Pablo Picasso. Peintures, dessins, sculptures, céramiques. Petit et Grand Palais, Paris novembre 1966-février 1967

出品作品 792 点。

「ピカソ近作版画展」東京国立近代美術館
1970年 2月7日—3月15日

II) 一般研究・モノグラフィー・伝記

Alfred H. Barr, *Picasso, Fifty Years of his Art*, New York 1946 (日本語版 植村鷹千代訳)

すでに記したように、ピカソ芸術の最も基本的な研究書。すでに発表されていた歴大な文献を背景に、絵画・彫刻・版画などの全作品に分析を加え、めまぐるしく変化するピカソの芸術傾向のひとつひとつを浮彫りにし、そこに的確な脈絡を与えている。

Paul Eluard, *Picasso*, Paris 1948 (日本語版 木島始訳)

Tristan Tzara, *Pablo Picasso*, Genève 1948

J. Bouret, *Picasso*, Paris 1949

G. Marchiori, *Picasso*, Venise 1949

G. Walther, *Picasso*, Stuttgart 1949

Jacques Lassaigue, *Picasso*, Paris 1950

Maurice Gieure, *Initiation à l'œuvre de Picasso*, Paris 1951

G. Schmidt, *Pablo Picasso*, Basel 1952

E. Rosenthal, *Picasso, painter and engraver*, San Francisco 1952

富永惣一『ピカソ—現代絵画論—』東京1952
Franco Russoli, *Pablo Picasso*, Milan et Paris 1954

Wilhelm Boeck, *Picasso*, (Preface de Jaime Sabartes), Paris 1955

596 点の図版を用いて、総合カタログと作品研究及び伝記を兼ねさせたもの。作品研究には示唆的なものが多く含まれる。

Frank Elgar et Robert Maillard, *Picasso*, Paris 1955

F. Elgar が作品研究を、R. Maillard が伝記を担当しているが、後者はピカソの最も充実した最初の伝記といえよう。

Maurice Jardot, *Picasso 1900-1955*, Munich 1956

1955年 6月—10月に、パリの装飾美術館でピカソ展が行なわれたが、そのカタログをほとんど一人で作製した著者が、ほぼ同一内容でミュンヘンで出版した。

P. Descargues, *Picasso, témoin du XXe Siècle*, Paris 1956

Antonina Vallentin, *Picasso*, Paris 1957

著者は女流ジャーナリスト。ピカソの伝記で優れたもののひとつ。読物として価値高い。

Roland Penrose, *Picasso, His Life and Work*, London 1958

これまで書かれたピカソの伝記中のいわば決定版。著者はピカソと親友であり、伝記の内容は詳細を極め、作品の分析も相当に専門的である。また個々の作品に付されたエピソードは、その作品の成立を解く鍵として不可欠

なものである。仏語版はパリで、独語版はミュンヘンで、いずれも1961年に出版され、両者ともに1958年以降の内容がわずかながら加筆されている。どちらも原文から削除した部分が各所にあり、特に独語版にそれが著しい。

Jean Cassou, *Picasso*, Paris 1958

Maurice Rainal, *Picasso*, Genève 1959

スキラ小型シリーズのひとつ。

Lothar-Günther Buchheim, *Picasso, a pictorial biography*, London 1959

ピカソの伝記のコンパクト版。図版豊富。

Pierre Daix, *Picasso*, (intr. J. Sabartès), Paris 1964

最近ピカソ研究に功の大きい P. Daix によるモノグラフィー。多少自己の設定したテーマにとらわれすぎたきらいがないでもない。図版豊富。

Hans L. C. Jaffé, *Picasso*, New York 1964

A. Fermigier, M. del Castillo, J. Grenier, P. Guinard, D. Milhau, G. Picon, Cl. Roy, D. Vallier, *Picasso*, Paris 1967

Pierre Dufour, *Picasso 1950-1968*, Genève 1969

André Fermigier, *Picasso*, Paris 1969

III) 特殊研究

a. イコノグラフィー

Jaime Sabartès, *Picasso, documents iconographiques*, Genève 1954

写真、挿図 206 点。「I. ピカソの家族」、「III. ピカソの横顔」、「III. ピカソの住まい」の三

部に分け、ピカソの人間像を多角的な面から浮彫りにしている。収録された写真は、ピカソの出産証明書など珍しいものが多い。本書はまた、ピカソの父方がバスクの血を引くという説、母方がイタリア出身であるという説に反証をあげ、ピカソの家系が父方母方ともにスペインに古くからある由緒ある家柄であることを主張している。

Roland Penrose, *Portrait of Picasso*, New York 1957

本書も貴重なドキュメントを多数集めている。

b. 特定の時期を研究対象としたもの

Alexandre Cirici-Pellicer, *Picasso avant Picasso*, Genève 1950

本書の西語版は、1946年にバルセロナで出版されている。1904年までのピカソを「ピカソ以前のピカソ」としてとらえ、バルセロナ時代のピカソからその芸術と人間の本質的要素を追求している。

William S. Lieberman, *Picasso: blue and rose periods*, New York 1952

Frank Elgar, *Picasso, époques bleue et rose*, Paris 1956 (日本語版 梅原成四訳)

Anthony Blunt and Phoebe Pool, *Picasso, the Formative Years*, London 1964

形成時代のピカソの芸術に、内面的及び様式・主題の面で影響を与えたものを、多くの実例をあげながら解明した説得力ある研究。

Georges Boudaille, *Picasso, première époque*,

1881-1906, Paris 1964

José Camón Aznar, *Picasso y el cubismo*,
Barcelone 1956

その他キュビズム時代についてはキュビズムを扱った多くの文献があり、それらは必然的にピカソ芸術の同時期の研究を含むことになる。

c. 特定の側面を研究対象としたもの

Tristan Tzara, *Picasso et la poésie*, Rome
1953

David Douglas Duncan, *Le petit monde de
Pablo Picasso*, Paris 1959 (日本語版 中込
純次訳)

J. Prévert, *Portraits de Picasso*, Milan 1959

Pierre de Champris, *Picasso, ombre et soleil*,
Paris 1960

ピカソ芸術に潜在的及び顕在的に影響を及ぼした諸要素を追求し、更に影響というよりも本質において共通すると考えた他の諸芸術例えば東洋の芸術などにも比較を求めている。

L. M. Domingulin et G. Boudaille, *Toros y
toreros*, Paris 1961

高階秀爾, 『ピカソ剽窃の論理』東京 1964

ピカソはこれまで、過去の巨匠の名作をもとにしたパロディーを多く描いているが、著者はこの行為を「剽窃」として捉え、その原作と「剽窃作品」との間に生じる類似と相似の分析からピカソの「過去への復帰」の動因を解明しようとしている。ピカソの場合、こうした探究がその芸術の本質的究明に寄与する所が少くない。本書は著書が1959年から『み

ずる』誌に連載した「ピカソの剽窃」をもとにして書かれている。

John Berger, *Success and Failure of Picasso*,
London 1965 (日本語版 奥村三舟訳)

著者はイギリスの美術批評家・ジャーナリスト。ピカソの芸術と人間を分析しつつ、その社会的成功が革命的気迫の失敗であったと断ずる。著者の思想の背後にはマルクシズムが明白である。

Helen Kay, *Picasso, le monde des enfants*,
Grenoble 1965

H. Parmelin, *Le peintre et son modèle*, Paris
1965

E. Quinn et R. Penrose, *Picasso à l'œuvre*,
Paris 1965

P. Gascar, G. Patrice et M. Ragon, *Picasso et
le béton*, Paris 1965

Josep Palau i Fabre, *Picasso en Cataluña*,
Barcelona 1966

d. 特定の作品、連作の個別研究及び図録

Juan Larrea, *Guernica: Pablo Picasso*, New
York 1947

序文は Alfred H. Barr。

Rudolf Arnheim, *Picasso's Guernica, The genesis
of a painting*, Los Angeles 1962

著者は心理学者。《Guernica》制作の各段階及びこれに準備されたスケッチに細かな分析を加え、《Guernica》における象徴性を追求している。

Anthony Blunt, *Picasso's 'Guernica'*, London

1969

著者が1966年に McMaster University で行なった講義をもとにして書かれた。図像学的分析に詳しく、《Guernica》に靈感を与えたものを過去のピカソの作品および他の巨匠たちの作品に求めている。

Cl. Roy, *Picasso, La Guerre et La Paix*, Paris 1953

ピカソの1952-53年の大作《La Guerre》及び《La Paix》を扱ったもの。

Jaime Sabartes, *Les Ménines et la vie*, Paris 1958

ピカソは1955年にカンヌの別荘「ラ・カリフォルニー」に移り、1957年にいわゆる《ラス・メニナスとカンヌの生活》のシリーズを描く。《ラス・メニナス》はバケステスの大作で、ピカソが例によってこの作品の彼一流のヴァリエーションを描いたものである。カンヌで描かれた一連の作品は1957年にカーンウェイレルの画廊で展覧されたが、本書はこのシリーズをまとめた画集である。

Douglas Cooper, *Picasso, Les Déjeuners*, Paris 1962

ピカソは1959年8月からマネの問題作《Le déjeuner sur herde》をもとにした連作にとりかかった。これらは1963年にルイズ・レイリス画廊及びパッスール画廊で展覧された。本書はこの連作を収録した画集。

Picasso's Vollard Suite (intr. Hans Bolliger), London 1956

ピカソが1930年から1937年の間に画商

Ambroise Vollard の依頼に応じて制作した100点の銅版画を収録したもの。

David Douglas Duncan, *Picasso's Picassos*, New York 1961 (日本語版 大岡信訳)

著者はピカソと親しい写真家。ピカソ自身が所蔵するピカソの作品を集めたもので、当時まで未発表だった作品も含まれている。

e. その他

H. Parmelin, *Les Dames de Mougins*, Paris 1964

H. Parmelin, *Notre-Dame-de-Vie*, Paris 1966
Vocors, *Picasso, Oeuvres des musées de Leningrad et de Moscou*, Paris 1955

IV) 回想録・対話集・その他

Jaime Sabartes, *Picasso, portrait et souvenirs*, Paris 1946 (日本語版 益田義信訳)

J. Sabartes はピカソのバルセロナ時代からの友人であり、ピカソが成功してからは彼の秘書を務めている。本書は、ピカソが著者を描いた肖像画を中心に、その周辺の会話、エピソード、想出話などをまとめたもの。ピカソの初期を知る上に欠かせない文献のひとつとなっている。

Fernande Olivier, *Picasso*, Paris 1954

著者は「洗濯舟」時代のピカソの愛人。先に *Picasso et ses amis*, (Paris 1933) を著している。無名時代のピカソとの生活をただただ懐んだだけのもので、記憶にも誤りが少ない。

Françoise Gilot and Carlton Lake, *Life with*

Picasso, New York 1964 (日本語版 瀬木慎一訳)

1943年から10年間ピカソとの同棲生活を経たもの。ピカソの人的側面を浮彫りにしている。

Brassaï, *Conversation avec Picasso*, Paris 1964

(日本語版 大岡 信・飯島耕一共訳)

著者は写真家。1943年9月初めから1962年11月27までの間に、著者とピカソとの間で交された会話を収録したもの。

V) 一般研究書

何らかの形でピカソに言及した一般研究書の数は、これも実に多く、ここでは特にピカソ研究の上に目を通す必要のあるもののみあげた。

Daniel-Henry Kahnweiler, *Juan Gris, His Life and Work*, London 1947

グリスは1906年からピカソのいる「洗濯舟」に住んだスペインの画家で、著者はどちらにも親しい友人であり画商であった。本書はグリスの唯一の優れたモノグラフィーだが、キュビズム及びピカソ研究に関しても参考になる所が大きい。

Werner Haftmann, *Painting in the Twentieth Century*, London 1954

John Golding, *Cubism: A History and an Analysis, 1907-1914*, London 1959

本書はこれまでに著された最も基本的なキュビズムの学術的研究書。

Marcel Jean, *Histoire de la peinture surréaliste*, Paris 1959

Jean Laude, *La Peinture française (1905-1914) et l'Art nègre*.

Daniel Henry Kahnweiler, *Mes Galeries et mes Peintres*, Paris 1961

Maurice Sérullaz, *Le cubisme*, Paris 1963

(日本語版 西沢信哉訳)

André Breton, *Le Surréalisme et la Peinture*, Paris 1965

Edward F. Fry, *Le Cubisme*, Bruxelles 1966

René Passeron, *Histoire de la peinture surréaliste*, Paris 1968

VI) ピカソを特集した雑誌及び雑誌論文

a. 雑誌特集号

Verve, numéro spécial, Paris 1948

Verve, VII, No. 25-26, Paris 1951

Le Point, XLII, Souillac, octobre 1952

Commentari, IV, No. 3, Roma 1953

La Biennale di Venezia No. 13-14, Venezia 1953

Realismo, Roma, marzo-aprile 1953

Du, No. 7, Zurich, Juillet 1954

Verve, VIII, No. 29-30, Paris 1954

Kunstwerk, IX, No. 3, 1955

Papeles de son Armadans, V, No. 49, Valence 1960

La Nouvelle Critique, No. 30, Paris, novembre 1961

b. 雑誌論文・記事

R. Bernier, *Barcelone, 48 Paseo de Gracia*, L'oeil,

- No. 4, 1955
- John Richardson *Picasso's Ateliers and Other Recent Works*, The Burlington Magazine, June 1957
- John Golding, *The 'Demoiselles d'Avignon'*, The Burlington Magazine, May 1958
 《Les Demoiselles d'Avignon》成立の背景となつた諸要素を追求した論文。特にイベリア彫刻からの影響面が詳しく論じられている。この論文は“*Cubism: A History and an Analysis, 1907-1914*”に再録されている。
- Phoebe Pool, *Sources and Background of Picass's Art 1900-6*, The Burlington Magazine, May 1959
 著者と A. Blunt との共著 *Picasso, the Formative Years* はこの論文をもとにして書かれている。
- Xavier Salas, *Some Notes on a Letter of Picasso*, Th Burlington Magazine, November 1960
- Christian Zervos, *Confrontations de Picasso avec des œuvres d'art d'autrefois*, Cahiers d'Art, 1960
 ピカソが他の絵画作品をもとにして描いたいくつかの作品について論じたもの。
- L. Prejger, *Picasso découpe le fer*, L'Oeil, octobre 1961
- G. C. Argan, *Picasso, il simbolo e il mito*, Espana Libre, 1965
- J.S. Boggs, *Picasso and the Theatre at Toulouse*, The Burlington Magazine, January 1966
- Pierre Daix, *La Période bleue de Picasso et le suicide de Casagemas*, Gazette des Beaux-Arts, avril 1967
 ピカソのバルセローナ時代の親友Casagemasの自殺と、「青の時代」のもつ悲愴性との関係が強調されている。
- Anthony Blunt, *Picasso's Classical Period (1917-1925)*, The Burlington Magazine, April 1968
- Christian Geelhaar, *Pablo Picassos Stilleben 《Paris et cmpotier aux fruits sur une table》 Metamorphosen einer Bildidee*, Pantheon, März-April 1970
- Les premiers Picasso de Gertrude Stein*, Connaissance des arts, novembre 1969
- Pierre Daix, *Il n'y a pas d'《art nègre》 dans les 《Demoiselles d'Avignon》*, Gazette des Beaux-Arts, October 1970
 前記の J. Golding の論文では《Les Demoiselles d'Avignon》とイベリア彫刻との直接的影響関係が強く論じられながらも、それまで信じられていた黒人彫刻との関係にも考慮の余地が残されていたが、この論文ではその影響関係は全くないと断じている。

追記

日本で刊行された文献については、特記を要するもの以外は紙数の都合上原則として割愛したが、1964年までの日本語文献に関しては、I) h. 展覧会カタログにあげた *Pablo Picasso Exhibition—Japan 1964* の巻末に詳しくとりあげられているので、それを参照されたたい。